

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

## 科研費による高校雪崩教育研修プログラム | N福島

科研費による高校雪崩教育研修プログラム（今後かわらばんでは「高雪研」と略して紹介する）を、12月25日福島県で開催した。福島県高体連登山専門部では例年は、この時期高校生向けの野外での雪山講習会をしていたのだそうだ。だから、要項には「第53回福島県高体連登山部冬季登山技術研究大会」（アンダーライン筆者）というタイトルが記載されている。つまり、今年で53回目、半世紀以上にわたって高校生の雪山登山技術の向上に果たしてきた歴史ある講習会だ。聞くところによると、例年は、初日に宿泊場所である野地温泉周辺の樹林帯の中での歩行訓練などの雪山技術研修が行われてきたそうである。しかし、今年は県当局からストップがかかり、座学のみでの研修にせざるを得なくなってしまったということであった。

この大会の日程そのものは、27日までの2泊3日で行われ、初日は座学で「高雪研」のプログラム、2日目と3日目はスキースノーボード実習という形で行われた。

「高雪研」としては、今年については座学中心のプログラムで構成を考えていたところではあるが、講習会を開催するにあたっては、座学により基礎技術を学んだうえで、



実地に出てスノーピットを掘っての雪質観察やコンパニオンレスキューの体験などが組み込まれるとより有効だと考えられるので、本当は外へ出での講習もしたいところであった。講義は最初に小生が「那須雪崩検証委員会報告」を60分、その後防災科学研究所の中村一樹氏による「雪と雪崩の科学」を90分、その後立山カルデ

ラ砂防博物館の飯田肇氏による「雪崩リスクマネジメント」「雪崩サーチ&レスキュー」を70分、夕食を挟んで小生が「高校山岳部の安全登山について」60分行った。

今回は専門的な内容も多く、生徒の皆さんにはやや難しかったかもしれないが、先生方はもちろん集まった生徒の皆さんはとても熱心に講義を聞いてくださった。やったものの自己満足かもしれないが、このような講習会が今後根付いていく事で、雪崩教育は間違いなく普及していく。今回の反省や経験を次回以降の講習会で生かしていきたいと思った。講習終了後、福島県の先生方とゆっくり話をし、今後の冬山登山における県教委とのやりとりなどについての意見交換や実際の運用などについて意見を交換した。その中でわかったことは、やはり栃木県の事故がいろいろな部分に影響を与えて活動を制約しているということである。今後数県行脚の旅が続くが、各県の状況については迷惑のかからない範囲でご紹介したいと思っている。

## 1年納めの雪上読図山行

12月28日大町岳陽高校山岳部一年納めの山行を行った。前日にいい塩梅に雪が降ってくれた。それで読図山行には最高のシチュエーションとなった。今回は雪山歩きの手始めとして、「雪山での歩行」「道のない雪山での読図」の二つが山行目的。



学校の東にあるいわゆる東山連山。そこには北から霊松寺山 (1128.6m)、鷹狩山 (1167m)、南鷹狩山 (1147.4m) の3つの山がある。しかし、これらの山を縦走する登山道はない。そこで、今回は学校をスタートしてこの3山を日帰りで登ろうという計画を立てた。

左のような地図を用意して北から入山する。8時に学校に集合し、Sには9時15分に到着。1番からポイント順に進んでいく。参加した生徒は、3年生男子1名、2年生男子5名、女子2名、1年生男子4名、女子1名の13名。ポイント1の傾斜転換、ポイント2の尾根の分岐と方向転換、3の三角点探し・・・適度な雪が歩きやすさを増し、生徒たちは楽しみながら、現在地を確認していく。3から4へは尾根を外さないようにコンパスをしっかりと合わせ、4のコルへ到着。ここからはコンパスと地形を見ながら5の

コルへと登りあげる。このころになると次第に読図の要領がわかってきた生徒が、まだわからない生徒に教える姿が出てくる。6までは班ごとにどのようなルートどりをするか方針を立てさせ、3人の顧問がそれをバックアップできるような形で

進ませる。7 (霊松寺山頂) までは80mひたすら登る。地図上の松付近にある小ピークもちゃんとチェック。ここで11時12分、お昼として25分の中休止。昼食を終えた生徒たちはエネルギーが余っているのか、雪合戦に興じている。

7から8へも班ごとに方針を立てさせる。林道を使って迂回する班、林道を目標にしながら尾根を乗り換える班、コンパスで合わせてまっすぐ8へ向かう班。このころになると、班ごとにそれぞれ方針を立てられるようになる。顧問としては、ここは下り方向が林道に3方向を囲まれているので、安心して生徒を放せる地点でもある。だから生徒には「林道を通らないこと」「乗越峠で待ち合わせをする」の2点のポイントを押えて班ごとに自由にルートどりをさせる。鷹狩山へは問題なく登り、南鷹狩山では山岳部歌を歌った。山頂からは南下し、15の平坦地から16への尾根の分岐も難なく見つけた。しかし、落とし穴は最後にある。17から18へ行くところで本来の尾根を外れて踏み跡が北西の尾根についており、それにひかれた生徒が、ルートを外れた。よくある道間違いである。ルートを修正させ、本日4つ目の三角点を無事発見。21を経由して14時55分ゴールに到着。

